

「PFAS」血液検査

脱プラサークル

2025年7月、PFAS 関連で2つの集会がありました。

一つは、7月20日西脇市で行われたPFAS血液検査結果の説明会です。西脇市では、2021年市の浄水場から、国の基準値の50ナノグラムの2倍のPFASが検出されていたことがわかりました。そして、「安全・安心な水を求める西脇市民の会」と「PFAS問題を考える西脇市民の会」の市民団体が立ち上がり、5月31日、兵庫民医連の東神戸病院で血液検査が行われました。西脇市民25名と阪神間の市民7名が参加しました。結果として、32名中、20名が、米国アカデミー基準値を超える数値が報告されました。また、西脇市民25名に限定すると14名が米国アカデミーの基準値を超え、特徴として、繊維の撥水加工に使われるPFHxSの数値が高いことがわかりました。会場には、89名の参加があり、小泉昭夫先生(京都大学名誉教授)のお話の後、質問も多く出されていました。地元の繊維関連の仕事に携わる人が、「自分たちが作るもので被害を出しているのか」と驚いた様子で、質問すると、小泉先生が「誰が悪いという話ではなく、検査をしながら、調査を続けなくてははいけません(行政の責任で)」と、丁寧に答えていました。また、阪神間の7名の血液検査の結果からわかったことは、PFASの合計値が、沖縄や多摩地域よりも高いということです。西区から参加した人が「自分の検査結果に驚いている」と話し、改めてPFASの体への影響を心配し、若い世代、特に妊産婦への影響を心配していました。そして、血液検査の重要性を実感したと話していました。

もう一つは、西神中央で、神戸医療生協のPFAS学習会です。講師の渡田さん(なでしこ歯科事務長)が、PFASについて基礎的な知識から明石川のPFAS汚染について、幅広く説明していました。汚染が疑われる場所や、2024年に「明石川流域のPFAS汚染を考える会」が行なった血液検査についての報告もありました。33名の汚染レベルは、特にPFOAに関して極めて高く、摂津市や東淀川の汚染レベルに匹敵、あるいは超えるレベルだったということです。ここでも、質問が多く出されていました。PFASについては、疑問を率直に出し合い、何度も学ばないといけないと、改めて思う集会でした。

※PFHxS(ペルフルオロヘキサンスルホン酸)2024年第一種特定化学物質に指定され、製造・輸入・使用が禁止された。

PFOA(ペルフルオロオクタン酸)WHOの専門機関IARCで発がん性がある第一類として認定された。



全国的に血液検査を実施し、結果を示すことで、政府に対策を迫ってこうと考えています。

最終的には、国の責任で検査を実施し、健康被害について調査させなければなりません。国に「予防原則」の立場に立って、住民の命・健康を守るために行動するよう求めていきます。(兵庫県保険医協会HPより)